

地学オリンピックの現状と今後の課題 (2019)

The report of the International Earth Science Olympiad (IESO),2019

*瀧上 豊¹

*Yutaka Takigami¹

1. 関東学園大学

1. Kanto Gakuen University

今までの地学オリンピックの活動と今後の計画や課題について報告します。

1) 今までのあゆみ (2012-2018) と今後の予定(2019-2021)

第1回 韓国大会 7 か国・地域 24 名参加 日本はオブザーバー参加

第2回 フィリピン大会 6 か国・地域 24 名参加 銀3、銅1

第3回 台湾大会 14 か国・地域 50 名参加 銀4

第4回 インドネシア大会 17 か国・地域 63 名参加 金1、銀3

第5回 イタリア大会 26 か国・地域 104 名参加 金1、銀2、銅1

第6回 アルゼンチン大会 17 か国・地域 66 名参加 金1、銀3

第7回 インド大会 23 か国・地域 90 名参加 金1、銀3

第8回 スペイン大会 21 か国・地域 82 名参加 金3、銅1

第9回 ブラジル大会 22 か国・地域 85 名参加 金1、銀1、銅2

第10回 日本大会 26 か国 100 名参加 金3、銀1

第11回 フランス大会 29 か国 108 名参加 金2、銀2

第12回 タイ大会、 38 か国 139 名参加 金3、銀1

第13回 韓国大会、第14回 ロシア大会、 第15回 中国大会 予定

2) 日本地オリンピック (国際大会予選) について

毎年9月1日～15日募集

予選 12月中旬 全国約75会場、約2000人応募一→60名選出

本選 3月中旬 つくば市、60名 一→金賞、銀賞、銅賞 各10名

代表選抜 3月中旬 つくば市 金賞10名一→4名国際大会代表

2018年度より予選上位200名以内に奨励賞授与（HPよりダウンロード）

3）計画・課題

- ・女子参加者の増加
- ・一般地球科学愛好者への宣伝
- ・事務局メンバーの高齢化、

文部科学省の支援金の減少 など。

=>

事業のスリム化、OB/OGの活用、高校・大学教員の積極的協力

キーワード：国際地学オリンピック

Keywords: International Earth Science Olympiad